

きよみずの御詠歌

松 濤 基 作 曲
藤 間 良 輔 振 付

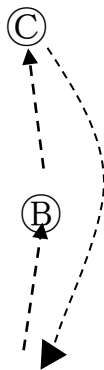
準 備	1. 扇を腰(左)にさし両手にて華皿(散華 4 枚)を胸前に捧げて入堂(華皿は白紐を前にする) 2. 座し終り左手にて華皿の紐を受け体前約 30 cm の所に紐の上に華皿を置く 3. 扇を右手にてぬき右膝の右側に斜におく(膝より扇の半分位を前に出す)合掌し終り 4. 両手を膝の上におき、まつ	
唱え奉る きよみずの		静かに合掌
御詠歌に		両手静かに膝の上
歌	手	足
(半拍休) あ	右手人差指と親指で扇の要をとり右側に立てる	腰をうかし
み		両踵の上に尻をおちつける
だ	扇を逆に返す	右膝を立てる
ぶ 	右扇をもったまま掌を下、左手掌を上にしてうける	
と	右手掌を上にし左手掌を下にする	
	(切り手水……清めの儀式)	
	右手を開き左胸にあてる	
	右手に交叉して左手を開き右胸にあてる	
(半拍休) と		
こ	両手で扇をもち胸前正面にして	
	右手を出し左手を手前にして一挙に扇を開く	
え		
(半拍休) と	右手扇の要を下にし右より作円して体腹部	
な 	前におき(扇表正面)左手左より作円して	
え	頭上にかざす掌は外側にする	
 て		
(半拍休) ま ど 	右手斜右上方に扇裏を正面にして	立って
ろ	伸す 左手は体前、片手合掌	左足を右足に揃える
ま 		
ん	右手の扇で右胸を打つ	両膝をまげ右足一步出し
	右手斜右上方に伸す(扇裏正面)	すぐ左足を揃える
	「ん」の要領を繰り返し行う	両膝をまげ左足を一步さげ
		すぐ右足を揃える

歌	手	足
(半拍休) な		
	右手の扇で右胸をうち	
が	斜右上方に伸し左手右膝の上におき	右足を一步出して膝をおろす
き	右手の扇をかえし人差指を扇の内に入れ右にまわす	
(半拍休) ね	扇をまわしながら(右まわり)	
む 	右上より	
り 	横、下をとおり	
と	正面上方で右手をとめる(扇はまわしつつ)	
(休)		
な 	扇をゆるやかに廻しながら	
り	体の右側で左手を以て(表右側)	
も 	扇をおさえる如くして閉じる	正座す
こ	右側両膝の線に扇の上端を揃えて	
そ 	おき	
す	両手を膝の前におく	
れ 		
な	右手にて華皿をとり	
	左手にもちかえ	
	右手で扇をとり	
	華皿の紐を右手でたくり両肘をつけて斜左右に開く	右膝を立てる
アム		立って右足を左足に揃え
あ	右手の紐をはなし	
	左足の華皿を右手の前方にもっていく	
	右手下、横、上の順でまわして	

歌	手	足
み	頭上にあげる(扇をかざす)	
(休)	右手、横、下、上の順に正面	右足より小走りに前進し
(休)		AよりBに至る
(休)	上にあげる(扇を頭上にさす)相、左手華皿 左にうつす	鉦の音でとまる
だ	扇を逆に返し	
	胸前片手合掌	右膝をつき腰をおろす
		右まわりをして後向きとなり
	右手の扇を腰にさし	
	右手人差指と中指の間に華をはさみ	
	顔の高さに捧げる	静かに立ち
	左手左に開き右手伸して頭上にあげ	斜左後方に向く如く
		右まわりして静かに身体
	散華する	をまわし(足はくいちがよい)
ぶ		体正面にもどり
	同じ要領にて華をはさみ	
	顔の前に捧げる	
つ	静かに左手左に開きつつ右手	左まわりにして斜左後方
	頭上に伸し	に体をまわして
	散華する	

歌	手	足
		体を正面にもどし
	同じ要領にて華をはさみ	
	顔の前に捧げる	
(休)		
な		左足をかけて右後方に
む		向き右足より前進し
		次第に小走りになり
		BよりCに進む
		Cにてとまる(①図)
(休)		
あ	両手左右に開き右手散華する	
	右手胸前に片手合掌	
み		左足をかけて斜右後の方向に
		向き
		次第に小走りとなり
だ		
		CよりAに至る
(休)		
ぶ	体前にて右手で華をはさみ	

(①図)



①

歌	手	足
	静かに左右に開き	右膝をつき
	散華する	
つ		左膝をつき
		正座して
	体前紐の上に華皿をおく	
	合掌する	合掌する
(休)		

ポイント注意

- 【な—む—】 指と足先。散華する時の指の使い方、方向回転時の足の運び方に注意してください。
- 【だ———】 走り方。はじめの二・三步はゆっくりと、そして腰をおとしながら小走りでまわり、最後はゆっくりと三步ぐらいで止まります。